

北海道福祉サービス第三者評価結果公表事項

1. 第三者評価機関名

特定非営利活動法人北海道介護サポートセンター

2. 事業者情報

名称：社会福祉法人 公和会 特別養護老人ホーム ルミエール	種別：特別養護老人ホーム
代表者氏名：施設長 鈴木 則子	定員(利用人数)： 83 名
所在地：〒003 - 0001 札幌市白石区東札幌1条3丁目1番1号 (011) 825 - 2555	

3. 事業者の基本調査内容

別紙「基本調査票」のとおり

4. 総評

特に評価の高い点

医療機関との日常的な連携体制

法人理事長が院長を勤める病院との関係から密接な連携が出来ている。半数近くが介護4.5を占め医療依存度の高い利用者も多い中、緊急時には協力病院との連携により医師の適切な指示を受ける体制がある。年1回の健康診断の実施と、嘱託医は週2回、歯科医は週1回訪れ、診察・治療・健康相談を行っている。また、外部の医療機関を受診する場合の協力も行われ、利用者の健康維持に努めている。

生活の利便性と地域環境について

当事業所は地下鉄からも近く、大型スーパー・商店や銀行、病院等があり、生活の利便性に優れている。付近に緑が多く点在し、遊歩道・公園や小学校が隣接、住宅地の中に立地していることから生活感が感じられ、また、働きかけによっては地域住民との交流の機会を多く持てることが予想される等、取り巻く環境に恵まれていると判断する。施設内は光にあふれる空間であり、3階建の館内は、360度どこからでも光が射し込む構造となっている。一人一人の居室には、1人に一つの窓があるという理想的な構造となっている。

理念・基本方針の明確化と関係者の周知について

理念及び基本方針は、重要事項説明書、運営規程、事業計画などに明文化されている。職員に対する周知として、毎朝の朝礼時に理念の唱和をすることや新入職員研修時、年度初め、会議等で継続的に理念教育を行い、各フロアにも掲示を行っているなど法人の努力が窺える点は評価できる。また、法人のホームページ、法人の季刊紙「ほっか・ほか」の発行などを通じて、利用者、家族、関係者への情報の周知を図っている。

改善を求められる点

ケアサービス向上に向けた組織風土の構築について

平成17年度よりチャレンジシート・人事考課評定書を採用した事や施設長による個人面談を実施するなど法人としての士気向上に向けての努力は窺えるが、人材育成プランに基づく人事管理体制やサービスの質の向上に向けた、教育計画・研修計画が職員に示されていないことにより、士気を喪失させる結果となっている事は歪めない。今後の取組みとして、職員面談を定期化することや自己申告書を採用実施するなど、職員から意見・意向を相互に確認する機会を増やすことによって相互理解が一層深まると感じられる。職員参画の運営体制の構築、組織全体としての計画的な研修を早急に検討し、職員個々の意欲の向上に向けた組織風土を作り上げることを期待したい。

個人情報に記載した書類の保管及び薬の管理体制について

介護ステーションは各階に設置されており自由に入室できるため、利用者の個人記録を誰もが目に見える状況である。個人情報の流失を防ぎ保護する観点から書類の保管・廃棄時期などについて規程・マニュアル等の作成や保管場所の整備等体制の確立に期待したい。

また薬の保管は、施錠できる体制になっていないため、利用者の薬剤事故に直結する危険性が高いと感じられる。今後、薬の紛失・利用者の誤嚥・重複服用などの事故防止等の観点から、薬剤保管庫の施錠の実施など、早急な見直しが必要と思われる。

生活環境の見直しについて

居室は全室に窓があり、採光に恵まれているが、無機的で殺風景な印象が強い。生活感溢れる空間となるよう個々の居室に写真や思い出の品を飾るなど、利用者が自宅にいるような感覚でくつろげる雰囲気が必要ではないかと思われる。食堂やフロアは、利用者が落ち着いて食事が出来る喫食環境や分煙対策を講じるなど利用者の視点に立った環境を作り上げていくことを期待したい。浴室については、設備はあるが機械的な印象は歪めない。入浴する際に多くの人が感じる安堵感を利用者の気持ちに置き換えることで、事故防止と家庭的な快適性を感じる浴室について更なる工夫が導びかれると思われる。今後利用者の生活環境の見直しとして、浴室脱衣場の衣類収納場所、利用者の手洗いと手拭きの設備、居室の衛生面などの改善をも視野にいれ、更に良質なサービス提供を期待したい。

5. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

6. 評価対象項目に対する評価結果及びコメント

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり